





源注拾遺卷第二目錄

きまつか

くまつか

うつか

ゆつか

まつか



相壺

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

舞 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

○ 今 葉 也 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

但 又 只 也 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

諸 翁 乃 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

出 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



病を極む可き者一人志とぬこれがほん一而そのことをとて  
ゆるしむるは丸  
クハ一といひし  
てくちのちのち  
一して 若くは下  
日ありていふ  
一といふは  
かゝる病を  
ひる病を  
たのまて  
病一といひし  
まといふは  
とんがて

いひつゝ

○今東日本池ノ津留をりつゝ

病のたりのさし篤瘡とりのちい

いふあしとりの病の瘡

といひつゝ

一はつちり

○今按和名之周易説卦之其於本也為

堅カタキ心ココロ 師説多心讀 此名也

一 ちむか

細流細水水とゆふ

○今東

た

は日乃

か

一

○今東

れ

おのりいしよとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり  
しらべしとらふりきりよとらふり

たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ  
たふらふらふらふらふらふらふらふ

一  
は  
れ  
し

細  
參 櫻 非 馨 明 德 惟 聲 一 つ 三 一  
威 徳 と 自 印 の あり じ

〇 今 業 之 れ 一 つ 三 一 三 一 三 一 三 一 三 一  
あ ち み こ ち こ ち こ ち こ ち こ ち こ

乃津のちけりしつてけりしけりし  
空井小万葉の歌のまどりしつてけりし  
ありけりしつてけりしつてけりし  
下にきりしつてけりしつてけりし  
しつてけりしつてけりしつてけりし  
取らるるつてけりしつてけりし

しつてけりしつてけりしつてけりし  
○今葉のりつてけりしつてけりし  
らり日本池の無名のつてけりしつてけりし

貴族のつてけりしつてけりし

一 此のつてけりしつてけりしつてけりし

か 万のつてけりしつてけりしつてけりし

○今葉のりつてけりしつてけりし  
可用

一 此のつてけりしつてけりしつてけりし

盡目也

○今葉のりつてけりしつてけりし

大にけりしつてけりしつてけりし



あはれいしうの目んちのきくし

目んちのきくしあはれいしうのきくし

目んちのきくしあはれいしうのきくし

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

あはれいしうのきくし

○今東の海かきしうの生に行とまら

うまらしうの海かきしうの生に行とまら

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

あはれいしうのきくし

拾遺別

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

月夜三

月夜三

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

あはれいしうのきくし

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

あはれいしうのきくしあはれいしうのきくし

新古今

家原惟親

新古今の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

目

新古今の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

大和物語

大和物語の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

新古今

伊勢大権

新古今の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

新古今の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

新古今の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

新古今

新古今の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

新古今の人の心はこれに  
従ふるは人の心はこれに

小色名竹あり

一 程にも美しきものあり

○ 今東土流日記し

らるも此段のまれつ程なる人

いづくともやせぬしつら

一 心とせりあるよ

ら平日記し

○ 今東日本流日記し平の事ありしつら

ふらあり

一 美けり

無人堂日記し

○ 今東日本流日記し

一 わくてもい

奥入

らるも此段のまれつ程なる人

あつらふ人をいふ

○ 今東奥入日記し

ら佐子入物語し

らる時はあらるすさひかきつて

事―物とみる―家

此方ほらりや奥入のちあ―ら小出より

一 にからにほむき夕られ

蓋津咄もる小肌寒将寒も流り

将を可用ある

○今東万葉人唐人等ていゝて

―あお海―将のちいりさけし

一 ねとけいこく

集日本純都

○今東日本他集の字つゝ

れ―振屋るに神集或らつゝ

よるをんゆけ―らを純いつゝ

ことり道入都乃字もほつゝ

ま(つゝは常にいり日お他い

とがつてと

一文木花の露吹送凡乃事

と伝らひ

細文木北文中乃心也

毛漆次法入の編をのり

○今東志深木の巻集に於て

一糸を流し入るる

とこそや乱入りか

新古紙下

らしく次法に

人の持ち

此法よりいれり文木北の只この文木乃心也

りの料を文中に

入るるさむき入りの書はたつらさるる  
とありしにせしむる

り一葉をゆきしゆらん

ら百友の座に

○今東志深木此の初れは

本を

又百友を

又百友

況此はつらぬ

一いふは中へね〜けいあなちう。

○今來はあふ水はほつは探れ中。これに  
と印文は此又月而しぬ是は〜御と〜りり  
おは川〜つ〜くお探〜ら〜の傳家此探  
お寂實和名は〜支ああり

○今來はあふ水はほつは探れ〜  
おは川〜つ〜くお探〜ら〜の傳家此探  
お寂實和名は〜支ああり  
おは〜し〜くお探〜ら〜の傳家此探  
お寂實和名は〜支ああり  
おは〜し〜くお探〜ら〜の傳家此探  
お寂實和名は〜支ああり

いふは中へね〜けいあなちう。  
お寂實和名は〜支ああり

一いふは中へね〜けいあなちう。  
お寂實和名は〜支ああり

○今來はあふ水はほつは探れ中。これに  
と印文は此又月而しぬ是は〜御と〜りり  
おは川〜つ〜くお探〜ら〜の傳家此探  
お寂實和名は〜支ああり

一いふは中へね〜けいあなちう。

○今來はあふ水はほつは探れ中。これに  
と印文は此又月而しぬ是は〜御と〜りり  
おは川〜つ〜くお探〜ら〜の傳家此探  
お寂實和名は〜支ああり



しつゝふれゝゝて成別様おのゝまゝ  
らふりおやしかりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しつゝふれ

○今案毎條おのゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
せ入るにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
んゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

盃際珠

○今案毎條おのゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うけむりて

盃 詰 兼 詰  
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○今案毎條のおのゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ





右に右側、敷く、とす、る、は、ひ、く、く、を、か、く、

○今、東、の、川、が、お、も、ろ、ろ、を、ま、り、ま、り、の、林、が、

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

狐、後、を、又、選、と、し、く、く、く、く、

和名、狐、の、唐、韻、云、狐、後、狐、後、二、音、和、名、曾、波、乃、本

本、名、也、又、四、方、本、也

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

蓄、麥、を、と、し、く、く、く、く、く、

瓜、を、と、し、く、く、く、く、く、

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

末、く、く、く、く、く、く、く、

く、く、く、く、く、く、く、

の、髪、卧、州、に

和名、素、云、唐、韻、云、髻、計、及、和、名、毛、止、利

髻、衆、也、四、聲、字、字、苑、云、髻、音、還、和、名、美、豆、良、一、云、訓、上、同

屈髮也

一 いしつゝしつゝあゝほゝ

ら稚日本純

○今案日本純小稚の字か——非代純  
と——は——た——き——い——ん——  
るれ——

ヨ市本

一 ときこ

ら逸 日本純 數奇 白氏文集

○今案日本純小逸の字きくと先  
のり南——り——き——き——あ——あ  
るは未考數奇の漢文亦廣傳く如く  
是いふる義あると音訓大さ小遠つり  
人字好の字か——い——ん——ん——  
ら此字も後——く——と——ん——



志しは不<sup>レ</sup>慢子<sup>レ</sup>故<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>竹<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>女<sup>レ</sup>あり<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>  
ころりし<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>母<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>嫌<sup>レ</sup>かり<sup>レ</sup>  
又<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>和<sup>レ</sup>物<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>共<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>文<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>細<sup>レ</sup>と  
の<sup>レ</sup>高<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>新<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>世  
く<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>して<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>文<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>文<sup>レ</sup>も  
は<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>書<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>  
人<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>  
は<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>  
小<sup>レ</sup>紙<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>

一 心はれやういひる。

孟 伴 引 分

ねり<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>

一  
○ 今<sup>レ</sup>案<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>拾<sup>レ</sup>遺<sup>レ</sup>集<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
上<sup>レ</sup>白<sup>レ</sup>かり<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>  
ら<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>暗<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>張<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>  
一 お<sup>レ</sup>わ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>

○ 今<sup>レ</sup>案<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>



一 かなし〜〜〜

各競 日本純

○かう東日本純乃中よ此の句一善美ふま十二以

各寺師ニ〜〜〜

日〜〜〜

費之ぶる業に

行〜〜〜

〜〜〜

六 拾一

意のれは〜〜

れの〜〜〜

拾遺物名 四十九日 補相

林内小〜〜

吹〜〜〜

〜〜〜

○かう東北道新良〜〜

〜〜〜

〜〜〜

うしーる

小井文忠政士下

人志まぬ人結ふかにゆりあつ

くまのしりりこぶひあつて

とー

明石寺の集書

比も乃底よりしてねなるいの

くもくもれーさのくもー

はとまあうおかくつて人結つた

是下也

○かゝる集とは是れはわがわがの集書なり後世

の百葉集小とこの彼集あつてはあつてと

わが集しとあつてもこの集書なりと

あつてつてつてつて

かゝる集書なりと

東山寺  
集書

○今案此二集はわがわがの日本集なりと

はあつてあつて生前なりと

くまのしりりこぶひあつて

○今案百葉集なりと 湯原と



うらなまむもくひりーのうら  
をたふゆとくすあひと

又曰也

うらなまむもくひりーのうら  
くろ心よつくあひと

そとにうらのかきけれりーのうら  
はあまし得羽重無とがらるにこれ表  
也のあゆむをうら乃字九重なるの表  
音便をうらまむ

うらなまむもくひりーのうら  
ししあひと

○今兼古今序よきひりーのうら  
いさつあひと

うらなまむもくひりーのうら  
あひと

○今兼古今序よきひりーのうら  
あひと

一 世小治のりきよく

○今案百葉書一よりの火鶴す

彼名よ書きたるに多頭すとかけり又

き九は 回時とらりゆればもよ

つととよきか

一 夫已とよむくらのいふもよ

つと

○今案史記佐子晉傳人鞭之於門

ら

一 といぬしとる事ほくひりて

ら 火影 日本紀

○今案火影といふは日本紀あり

万葉書十一

物ありしとる事

妹らとる事

一 又 火のいふは

つとほれいふか

さやうもえしとる事

○今案此の其のつまがのつらき心  
しこふれし様はや、ゆるむをむふに  
しれとおもむく又文或やまの表(とわらに  
たしあのりもすまひもむくもむくもむくも  
たにあり)

一 心片もま(と)〜  
細賣相かちけりま(り)まのほ(ま)〜  
此歌詞よおはま(れ)

○今案其義相主人母とりりあり〜

遊仙窟小(と)人母(れ)〜  
才人の歌よ家童子と思しけり或ある人  
流布ありお小此の〜  
合〜  
才十(と)日兄慕(と)むる名忍坂大(中)娘(は)〜  
をこめあり母(れ)やけお(は)〜  
閑雜遺〜  
者(の)〜  
〜  
に(り)母(は)此(を)親(自)〜

かしたる。は上人を女といふは。さ  
 しきさす。ありね。名。員。と。月。自。と。心  
 不。して。く。り。一。言。葉。亦。以。以。坂。上。師。如。り。お  
 ち。る。が。お。わ。り。あ。ん。の。自。と。り。れ。の。老。お。し  
 ぬ。く。つ。つ。る。家。童。子。と。お。く。か。け。り。は  
 一。つ。の。女。性。と。お。の。り。の。人。の。自。と。り。れ。の。老。お。し  
 ぬ。く。つ。つ。る。家。童。子。と。お。く。か。け。り。は  
 一。つ。の。女。性。と。お。の。り。の。人。の。自。と。り。れ。の。老。お。し  
 ぬ。く。つ。つ。る。家。童。子。と。お。く。か。け。り。は

一 偏と情と  
 ○今葉は撰小

一 の。世。中。は。一。つ。の。女。性。と。お。の。り。の。人。の。自。と。り。れ。の。老。お。し  
 ぬ。く。つ。つ。る。家。童。子。と。お。く。か。け。り。は  
 一 つの女性と  
 一 つの女性と

○今葉は一りふれ。唐。一。つ。の。女。性。と。お。の。り。の。人。の。自。と。り。れ。の。老。お。し  
 ぬ。く。つ。つ。る。家。童。子。と。お。く。か。け。り。は  
 一 つの女性と  
 一 つの女性と

養咎也或後々也

○今兼その難人たるは詞の是は人の物  
有りて夫之は之は後々也  
さかむ支那の  
ら廿只の  
我を  
らさるれば  
しりしひよかひ

呼あはれ柱はりしや由ははら夢ら

まのたねの  
あはれ世の  
○今兼小百系

九見免原處土墓哥

乃

處女墓中尔造置壯士墓此方彼方  
二造置有故縁而雖不知新喪  
之如毛哭泣鶴鳴

此有縁  
一

らばらばゆきをとりまうらうらうらゆきゆき  
は文系もわろくおしつうも文し孫いさてく  
もつうあう人しゆいふおとひは倍し  
のり拾ひものゝさかう

一 ふまうらうら

の考此注は後漢書に在り

後漢書

注、鄭玄、註、禮記、曰、后之言後、言心ハ在之、  
後、故、以、如、謂、後、達

自此以下六字  
後漢書注无之

〇かり葉を以てしんはり大かほつるれし  
は漢書を考ふしんしん等しんかめし  
本朝文粹寸一慰少男女詩 管 従 跪 彈  
琴者 同 卷 稱 弁 御 俗謂貴女為御、蓋取  
貴人女御之義也 何  
ゆらひのめく玉貴女しんかうてらぬはむのり  
一 らしんしん力を

〇かり葉大むわたりしんお伸ら、是のしんも  
ゆらひゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

あ、は、は、は

うらひとてな

音出 遊仙窟

〇今葉遊仙窟小音出の二字ぬ  
万葉すてり

百年ノ先音出而予余年も

ふいふいふい 意いふふも

これとちほき二れんか たがり先ちり

乃鏡よおいららむもさかきりぬもこゝろを

きしと引かかしく入る此先音出は

從く遊仙窟と引かういふは

下にいりてあつたんを

はなまゝとてあつたに

あつたにまゝとてあつたに

まゝとてあつたに

いふのかれあつたに

かゝるあつたに

あつたに





こにしらぬんをよりのちねはしる

○今葉 有意

日本絶句十八

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○今葉ゆらゆらゆらゆら

待賢門流あはれ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ふとつはつけふりなり彼名をいそくゆは  
しつかりしむしはしかりしかりし  
は子蕨乃きふささく引りり去れし  
ふ葉しはかりしむしあり  
一 たりてふきしやふしん

○今葉 相撰集表す

しつ

うさそと花もかりれぬけふと  
むらかりしむしありしあり

一人かきしむしあり

○今葉百葉才十八大伴家持教二喻史生  
尾張少昨ツ哥乃中よふ

ちさふむ	さけりはうりに	し
し	とれりあり	あさ
しひ小	あつしききき	うち
おと	しりけしむ	とこ
し	からしきちり	りん
つらぬ	けしきき	まむ

あはらうとちんこ  
あはらうとちんこ  
あはらうとちんこ  
あはらうとちんこ  
あはらうとちんこ

あはらうとちんこ

あはらうとちんこ

○今う某此は注あやとれと 和名之指

旨及和名由比  
儀之能与比 儀禮之季指 和名古能  
与比

小指者五指也これ惣一とあはらうとちんこ

一 船もわらうとちんこ

一 一は能鳥井の東小なる清ん

二 条万里小路小町とちんこ

○今東しけらふ日記より一とあはらうとちんこ

日音にあらう

一 夫はとちんこ

一 娘 年次 娘 ○ 此字はより出る

一 今う某此は注あやとれと

○今う某此は注あやとれと

藤浪乃思纏若草乃思就西云云

一 今集ち此はゆか

の今集ち此はゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

皇太后文漢典

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

○今集月本他小喧は音乃本故はるい

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

和泉武部

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

注 ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

○今集ち此はゆか



多と安ゆわ何んさかきく可長ち  
うちとらるるに

細 春の音にきくゆわたり方成心ゆき  
毛ゆきりぬき

○今う東古江のりく次 和名抄云野玉梅云

類 音換和名豆  
良一云保く 面ノ豪月下也

りほをくゆきさのほゆきしれ色く行  
るまゆゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
夏ゆりぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

——ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

言の南之切ふゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆき 勝人妙

細 遊 妍 日本絶

○今う東古江のりく次 和名抄云野玉梅云  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

らてまゝにうらまゝに

一 伊予の命にうらまゝに

うらまゝにうらまゝに

○かき大木にうらまゝに

備力大納言のうらまゝに

子仲のうらまゝに

長久保のうらまゝに

うらまゝにうらまゝに

一 女房のうらまゝに

うらまゝとゆゑに

○今東はちうらまゝに 筋替 角違 日 のうらまゝ

人かゝるにうらまゝに

美ちりちうらまゝに

一 りらゝにうらまゝに

細 編 りらゝにうらまゝに

まゝにうらまゝに

○今東はちうらまゝに

うらまゝに





ら  
ち

○今東世は

か

三版 ハコノチノ草ヤクノ次  
は

注

—

○今東世は

ら

ら

ら

ら

ら

ら

ら

○今東日本絶

ら

ら

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

新撰

一 おいしくいふは

は ちしげかたし

○ 今お薨ナホて 此多ナホく物もさぬかれりあま

まのいそなり物もさぬかたありそしげか

たすはたすをきくはたすはたすはたす

叶はるる

一 られかたなりいそゆふささるひりあ

○ 今按神代紀下云天ノ銅ウメ如乃アサノ露其胸

乳<sup>ラ</sup>柳裳<sup>モ</sup>帶<sup>ヒモ</sup>於將下<sup>シ</sup>而笑魄向立<sup>レ</sup>れ  
あまのかげを

~~~~~

の傍側

も飽足

○今葉紋倍ある一〜

~~~~~

盃垣間見<sup>カサ</sup>万<sup>カ</sup>園<sup>ニ</sup>

○今葉万葉に垣らんれ〜

本紀小視其私屏をうひぬ〜  
の垣らんあり 園此字の〜  
に〜

~~~~~

細麻凡<sup>カ</sup>ら〜

○今葉疊廣免れ〜  
海まゆあか〜  
らん紙を〜  
凡<sup>カ</sup>〜

たじつととりあがり又さうさう席巻を  
さうさう(さうさう)とさうさうと  
さうさうとさうさうとさうさうと  
さうさうとさうさうと

一 かつらぬき(4)——さうさう

○今案日本他方九小並野于皆これ  
うたぬきとれさうさうとさうさう  
うつさうとさうさうとさうさうと  
ひささうとさうさうと

○今案此方全篇仔細集ふらりといふ  
古本はあつたりやを考ふるよらるる  
か

さうさうとさうさうと  
さうさうとさうさうと  
さうさうとさうさうと

夕らほ

うちよほほのくむねししる朝

○今来徒倚ヨロ日本紀

うらほありをいふ

孟綱チカ纏チカ日本紀チカ選チカ 延長式

○上人字あまかし

細しほの顔也顔あかかろうかほ心  
ありほのまほくむししはあまかしく  
あまかしくありんむししあまかしくむしし

かまかまかまかまかまかまかまか

○今来あまかまかまかまかまかまか

あまかまかまかまかまかまかまか

あまかまかまかまかまかまかまか

あまかまかまかまかまかまかまか

あまかまかまかまかまかまかまか

あまかまかまかまかまかまかまか

あまかまかまかまかまかまかまか

あまかまかまかまかまかまかまか

しつゝの所 帆と帆ありしはつとほつとほつ  
とほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
のつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ

ゆつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
もつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ

此も帆ほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
ゆつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
まつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
はつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
にほつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ

一 体とつとほつとほつとほつとほつとほつ

○今所和名云文云能

了礼及揚氏漢  
説抄云牛相能

夏本之 以角觸物也 此能の字はさつとほつ

らつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
あつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
なつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ

一 やつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
のつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ  
月<sup>サレ</sup>らつとほつとほつとほつとほつとほつとほつ

揚名極しつゝ是れもまた一いつりやうか  
をいふかひくさひいふ揚名同分おむり  
をいふかひくさひいふ揚名同分おむり  
今集報中云候は物此の揚名今の事  
を忠告物ト小尋物おむりかうりら

家系報物に

はくまのりしとさうりやうか  
やのりしとさうりやうか

五—— 丹波太右衛門

心あふふとれいふりやうか

ぬいふとさうりやうか

揚名今の石傳とさうりやうか

小洲白あり名つらふとれいふりやうか

らもいふりやうか 國勢とはいふ

とらもいふりやうか 権とけいふ

とらもいふりやうか

一 序心とさうりやうか

○今集六條は息おむりやうか



あしあしとあはれしうらなを  
はらへりて文書はしるす  
はらへりてあはれしうらな  
はらへりてあはれしうらな

○今兼百教の行の  
御しつり又因て

朝しうきおくねる  
あしあしとあはれしうらな

又朝しうきおくねる

調行 年  
に

○今兼調行事  
のしんあはれしうらな

あしあしとあはれしうらな  
あしあしとあはれしうらな

○今兼大教あはれしうらな  
あしあしとあはれしうらな

あしあしとあはれしうらな

らあけいさうしうし

秘かうとらうの筆つひ

○今来あけいさうの怪慢の心われし不

件物とあけやる心われのるどらうれ心

ありし——六帖し

一 けししつてわらわかし——しあしあし

夢 不童生 男 童生 女 長恨哥

○今来あけいさうの怪慢の心われし不

一 けししつてわらわかし——しあしあし

孟 橋乃も此中解し

○今来あけいさうの怪慢の心われし不

誤まり

一 けししつてわらわかし——しあしあし

夢 不童生 男 童生 女 長恨哥

○今来あけいさうの怪慢の心われし不

件物とあけやる心われのるどらうれ心

ありし——六帖し

○今来あけいさうの怪慢の心われし不

~~~~~  
~~~~~

○今来

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○今来此はあやまらうはあひの法成たひ

~~~~~

~~~~~

○今来此はあやまらうはあひの法成たひ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



一 此ららあ〜つ〜れん、りや

○今東 不意 ナリキキク 日本他

一 にも〜小室かられて母ゆ〜り

○今東物〜〜〜人まお教りて〜ゆ〜や

一 杉と中川

○今東物杉木小奥中〜ゆ〜後と大

身小得〜川〜ゆ〜ゆ〜万葉集三十一

あり〜 能吉奈我河波〜りり

日本紀 廿八云 男依等与近江軍

戦息長横河破之 延喜式 卷八

廿一 諸陵式云 息長墓 舒明天皇 之祖母名

田廣姫 在近江國坂田郡

〜川〜今〜考〜〜 近江坂田郡小

ゆ〜息長〜ゆ〜万葉小春〜ゆ〜ゆ〜

長〜ゆ〜中〜ゆ〜ゆ〜能あり〜ゆ〜ゆ〜

身〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

万葉にゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

長〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

長小ちきりぬきつゝのりて女（一）

一 清いよりのりてつゝのりて

孟集 日記

○ 後のちきりぬきつゝのりて

一 んんくつゝのりてつゝのりて

しつゝのりてつゝのりて

女（一）のりてつゝのりて

ちきりぬきつゝのりて

ちきりぬきつゝのりて

○ 今案又かほりてつゝのりて

ちきりぬきつゝのりて

ちきりぬきつゝのりて

ちきりぬきつゝのりて

ちきりぬきつゝのりて

一 ちきりぬきつゝのりて

孟 ちきりぬきつゝのりて

ちきりぬきつゝのりて

○ 今案もつゝのりてつゝのりて

爰に小なりしを大なる為白のりたる  
小あり此のりしを大なる為白のりたる  
今乃ち大なりしを小なる為白のりたる  
道ももはるしを大なる為白のりたる  
○今東万葉集也  
梓弓つらりて音ももあはれ  
あはれつらりて音ももあはれ

目十一

今東のりしを大なる為白のりたる

あはれつらりて音ももあはれ

○今東万葉集也

あはれつらりて音ももあはれ

あはれつらりて

あはれつらりて

五 日本紀

○今東國象此のり美都波つらりて  
と候名かゝりてはつらりて

ひとりの心と云ふは、  
後の誤あり

一 しのぼくおひらりし  
たまゆりつ。

○今葉 諭 日本紀

一 くらうのかけ

○日本紀云 大捨燃燈

一 つつはしめ

○意傳と提中納言のい大和物後し

篋余ぬい  
名あり

一 海らりし

○今葉 爲 葉 十又 提 命云

のの

われ

あは

ち

たの



これらよめるがうらなれむ新あつて

右の如く

わしはうらなれむのうらなれむ

わしはうらなれむのうらなれむ

孟 殺増のうらなれむのうらなれむ

○今乗らうたのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

は夫 日如他の業非他よ益る業代用

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

うらなれむのうらなれむのうらなれむ

わさくしあくしあ

一 川方よりくさくさ

○今按 般達紀云 於是 絞 糟 茅 懼

然 恐懼 乃 下 泊 ウリヤニ 中 流 面 ウリヤニ 三 諸 岳

漱 水 而 盟 曰

一 是 を 中 に 以 て

○今 案 万 葉

立 居 ち ぬ ち ぬ ち ぬ ち ぬ

ち ぬ ち ぬ ち ぬ ち ぬ ち ぬ

わさくしあくしあ

わさくしあくしあ

ちぬちぬちぬちぬ

ちぬちぬちぬちぬ

ちぬちぬちぬちぬ

ちぬちぬちぬちぬ

伊勢 ちぬちぬちぬちぬ

ちぬちぬちぬちぬ

○今 案 万 葉

君哉たそ入敷

ゆりともふれあ

又章はと

と

一

○今桜和名録九淡路國津名郡

平泉阿惠此

と

と

一

○孟津小

と

と

と

と

一

に

○

張るるかゝる人——新あかき新場小月——  
人かゝるか

かゝる人かゝるかゝるかゝるか

かゝる人かゝるかゝるかゝるか

かゝる人かゝるかゝるかゝるか

かゝる人かゝるかゝるかゝるか

かゝる人かゝるかゝるかゝるか

かゝる人かゝるかゝるかゝるか

○今東あかき位のももかゝるかゝるか

り——場りく新場り新場り新場り

を操り新場り新場り新場り新場り

海り——新場り新場り新場り新場り

人かゝる人かゝる人かゝる人かゝる

人かゝる人かゝる人かゝる人かゝる

○今東あかき位のももかゝるかゝるか

しにあかき位のももかゝるかゝるか

一 日十九日

細り——新場り新場り新場り新場り

○今東拾遺小菅束抄巻、四十九の段音一  
後器小しる。おしられひしき書物に入らる  
おろけしる。幾十日もあつてもおろけ  
つあつちり。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。

○今東拾遺小菅束抄巻、四十九の段音一  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。

おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。

一  
原巨城

おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。  
おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。おしる。

一  
○今東也心いりしれん所てあはれんたの  
おもふ山行く　わあふ百段かき二持統  
て皇女も山ふくさるるまじさか  
つるがまはれむ　あはれさくはるる  
おほくしりる　一也皇日音段かき一  
よし行くる所あはれりとのたのむる  
よく行く　る　る　る　る　る  
よく行く　る　る　る　る　る　る　る　る　る

一　あはれさるるるるるるるるる

○今東あふおる人のちとけいさるる人  
ふらふ女が持果れあはれまはるる  
ゆらあはれりるあはれりるあはれりる  
にふらふるるるるるるるるるるる  
あはれ果れりる　一　まはれ果れりる  
らるるるあはれりるるるるるるるる

○今東日本絶世古の皇位他を以て水  
送飯　るか物　ゆ　ら　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る　る

一 川はいろねのちよつ

ら 寛 延 永 徳 の 大 河 川 水 邊 へ 寄

○ 今 東 山 へ 寄 大 河 川 水 邊 へ 寄

取 次 大 河 川 水 邊 へ 寄

の ち 寄 大 河 川 水 邊 へ 寄

此 等 大 河 川 水 邊 へ 寄

此 等 大 河 川 水 邊 へ 寄

一 色 橋 の 中 へ 寄

○ 今 東 山 へ 寄 大 河 川 水 邊 へ 寄

一 色 橋 の 中 へ 寄

一 色 橋 の 中 へ 寄

ら 寛 延 永 徳

○ 今 東 山 へ 寄 大 河 川 水 邊 へ 寄

取 次 大 河 川 水 邊 へ 寄

の ち 寄 大 河 川 水 邊 へ 寄

一 色 橋 の 中 へ 寄

此 等 大 河 川 水 邊 へ 寄

此 等 大 河 川 水 邊 へ 寄

○今葉此は誤ありわづらひさし  
ぬきまねりりこころを  
あはれに思ひ  
しるひ若らひ  
たしむる  
やふ

遺情遺懐遺憤  
去何比

○今葉さきり  
はさる  
あ

い  
む

○今葉葉羅の  
さむ  
つ



つははたのいしらすか

頬ツラギ西ヤウ様ウラ芳カタ亮 日本地

○今東は六字日本地ははるる

いぢり十日

○今東よの字ちり音ちりート北は十

も年一もあつちりちりちりちりー

ちーちりちり

○今東賢良情 万葉三 進日 情日 廿日 十六

ちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちり

○今東は六字日本地ははるる

ちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちり

○今東より...  
つと...  
は...  
○今東 好撰 夏日

...  
...  
...

...  
...  
...

...

...

...

...

○今東 朗詠 野草 芳菲 紅錦池

...

...

...

...

細くはらうとすをたれおちけての白綾

○今東定ぬのちのちのち系す

是川丸山さうとす成成た

わつ約人をたれうとむ

此方成おちの本体は一勝の白ちけ

しつとをちのちおちけてい入下白

むしと若のちるちるちる成れ

わつ約をいっつちちたれと成の白

は此ちとたれちるちるちるちる

ちあ成成白綾のちと頼係ちの盡

に定ぬのち入下白とすちちち

又成ぬのちちの暗地ち成れ

の成れちち成れちちちち

奥山のちち成れを押し

とあや出ちちちち

奥山のちち成れ成音

妹のちちちちちちち

奥山入るも此板戸をこへて

ふらふらと入るもあつ

ふらふらと奥山入るもあつ

つらつらとあつあつとあつ

やうてあつあつとあつ

むのふらふらとあつ

三糸若大信

ふらふらとあつあつとあつ

あつあつとあつあつとあつ

真凡集

うさくはあつあつとあつ

あつあつとあつあつとあつ

於也

あつあつとあつあつとあつ

あつあつとあつあつとあつ

あつあつとあつあつとあつ

○今東邊よりあつあつとあつ

あつあつとあつあつとあつ

一 ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ  
○今東 舟丸物語

今 ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

舟丸物語

ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

一 舟丸物語

ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

舟丸物語

ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

舟丸物語

ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

舟丸物語

ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

舟丸物語

ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

舟丸物語

ころむの法はほむの法にまじりてしるされぬ

舟丸物語

立や夫を物なれし

古かり小

あゝいふらわらむいむ小長殿

物ほし山とて立らちひり

始撰

長られむいんこほりいゆと

物ほしの殿とて立られ

とれはが小いふ候葉もさるゝ小の

いふらむいんこほりいゆと

いふらむいんこほりいゆと

○今東気不悪ふ事むりのせはち

いふらむ

いふらむいんこほりいゆと

奥入

あゝいふらむいんこほりいゆと

いふらむいんこほりいゆと

○今東此歩け小也

大帖又

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日々

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

夕たれにむすりむすりむすり  
むすりむすりむすりむすり

おはしり

はるかにむすりむすりむすり

おはしり

○今葉もつ穂し 五十一

藤入のむすりむすりむすり

おはしり

日十二

かくれむすりむすりむすり

古今

おはしり

おはしり

おはしり

○今葉もつ穂し

おはしり

おはしり

六帖





かゝるに... 小舟のり...  
えんは... 久し...

これの... 武雷神... 建御名方神... 痛吾... 勢...

かよ注之

孟 率 伊物

○今... 伊物... 伊物... 伊物... 伊物... 伊物...

○今... 日本紀... 六... 仁... 特天

皇枕<sup>ミ</sup>皇后<sup>ミ</sup>藤<sup>ミ</sup>而<sup>ミ</sup>晝<sup>ミ</sup>寢<sup>ミ</sup>同<sup>ミ</sup>仁<sup>ミ</sup>德<sup>ミ</sup>紀<sup>ミ</sup>云<sup>ミ</sup>  
俄<sup>ミ</sup>而<sup>ミ</sup>集<sup>ミ</sup>別<sup>ミ</sup>皇<sup>ミ</sup>子<sup>ミ</sup>枕<sup>ミ</sup>皇<sup>ミ</sup>女<sup>ミ</sup>之<sup>ミ</sup>藤<sup>ミ</sup>以<sup>ミ</sup>卧<sup>ミ</sup>  
万<sup>ミ</sup>葉<sup>ミ</sup>才<sup>ミ</sup>五<sup>ミ</sup>琴<sup>ミ</sup>娘<sup>ミ</sup>子<sup>ミ</sup>平<sup>ミ</sup>云<sup>ミ</sup>

いふあ〜ん日乃叶〜こがらん  
人のひさあ〜りわ〜さ〜し〜し

月<sup>ミ</sup>七<sup>ミ</sup>夕<sup>ミ</sup>日<sup>ミ</sup>中<sup>ミ</sup>琴<sup>ミ</sup>う<sup>ミ</sup>分<sup>ミ</sup>云<sup>ミ</sup>

ふ〜ふ〜夫<sup>ミ</sup>玉<sup>ミ</sup>のふ<sup>ミ</sup>琴<sup>ミ</sup>娘<sup>ミ</sup>〜し〜し  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

○今<sup>ミ</sup>東<sup>ミ</sup>魯<sup>ミ</sup>の<sup>ミ</sup>截<sup>ミ</sup>上<sup>ミ</sup>云<sup>ミ</sup>羽<sup>ミ</sup>と<sup>ミ</sup>法<sup>ミ</sup>あり〜て〜い  
羽<sup>ミ</sup>か<sup>ミ</sup>ま<sup>ミ</sup>は<sup>ミ</sup>法<sup>ミ</sup>羽<sup>ミ</sup>〜り〜り〜截<sup>ミ</sup>の<sup>ミ</sup>流<sup>ミ</sup>〜か〜ま  
い<sup>ミ</sup>入<sup>ミ</sup>羽<sup>ミ</sup>あり<sup>ミ</sup>度<sup>ミ</sup>の<sup>ミ</sup>あ<sup>ミ</sup>〜い〜い〜い〜い  
障<sup>ミ</sup>截<sup>ミ</sup>〜り〜今<sup>ミ</sup>〜い〜い〜い〜い〜い  
音<sup>ミ</sup>と<sup>ミ</sup>〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
と<sup>ミ</sup>の<sup>ミ</sup>入<sup>ミ</sup>羽<sup>ミ</sup>あり<sup>ミ</sup>い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
志<sup>ミ</sup>の<sup>ミ</sup>先<sup>ミ</sup>〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
秋<sup>ミ</sup>あり〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
〜り〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

しつたいさういとしれ

○今東音大立ぬらふらうとんは  
にーのる 万十

妹う門あさうひく華むき

凡次らひあふこ日たせ

催る木のながされらうせりあ

立るゆり音のまらぬらうせりあ

とらーふさうりーせ

○今東音大立ぬらふらうとんは

ていせらう植あふれりえは  
ふらう万葉に花植くたれい  
あふらう

播きんせらう

ふらう

ふらう

首丹

ふらう

とちつて心も能くして

一 草人とき

お様と又

よみこころいふはなはたの

草人とき

一 草人とき

〇今東ちり

あま

糸と出

うねはつた

万葉集

人間等

らひん

かふ川

此は

此花の

村を

そら

物後、かゝる人々もあつた中、  
年々、その心も、  
央のまゝ、  
し、

細 花葉、

○今、葉、  
な、  
指



